

平成 23 年度の新規学卒者採用計画に関するアンケート調査結果

株式会社鳥取銀行
くらしと経営相談所

【調査結果要旨】

～ 採用計画人数、企業数とも若干増加 ～

- 各事業所における従業員の過不足感は、製造業、非製造業ともに「過剰」となった。
- ここ数年の新規学卒者の採用状況を前回(一昨年)と比較すると、「断続的に採用」が増加し、「近年採用実績なし」が減少している。
- 平成 23 年度の採用計画を前回と比較すると、採用を計画している企業、人数とも若干増加している。
- しかしながら、「高校卒」の平成 23 年度採用計画人数は、引き続き減少しており、来年度県内就職を希望する高校生にとって、厳しい状況が続いていることが予想される。

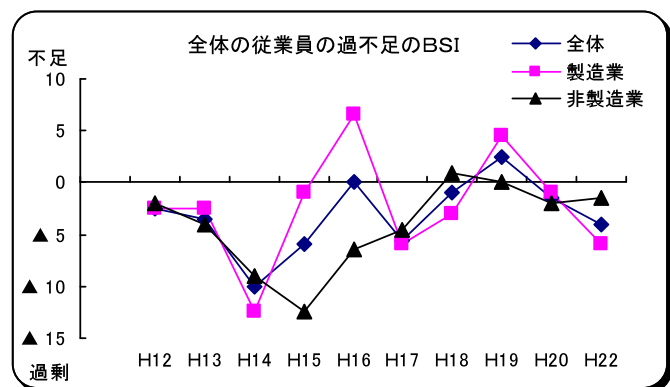
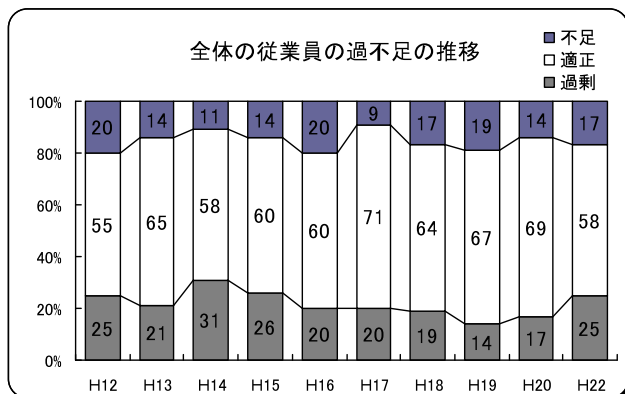
【調査概要】

調査方法	郵送・持参によるアンケート方式（平成 11 年より毎年実施。平成 21 年度は実施せず）
調査対象	鳥取県内企業 208 社（有効回答 102 社（製造業 57 社、非製造業 45 社）、有効回答率 49.0%）
調査時期	平成 22 年 4 月（当行の「鳥取県企業動向調査」と同時調査）
調査内容	「平成 23 年度の新規学卒者採用計画」 1. 従業員の過不足 2. 職種別の過不足 3. 新規学卒者の採用状況 4. 平成 23 年度の新規学卒者の採用方針 5. 新規学卒者の採用実績(平成 22 年度)と採用計画(平成 23 年度)

1. 従業員の過不足感 【製造業、非製造業ともに「過剰」感】

調査時点の各事業所が感じる従業員の過不足は、回答企業全体(以下全体)で「適正」が 58%(前回調査 69%)、「過剰」が 25%(同 17%)、「不足」が 17%(同 14%)となった。前回調査と比較すると、「適正」が 11 ポイント低下し、「過剰」が 8 ポイント、「不足」が 3 ポイント上昇した。

業種別で従業員の過不足のBSI[$(\text{「不足」企業割合} - \text{「過剰」企業割合}) \div 2$]をみると、製造業は▲6.0(前回調査▲1.0)、非製造業は▲1.5(同▲2.0)となり、全体でも▲4.0(同▲1.5)と「過剰」になった。



2. 職種別の過不足 【過剰職種は現業職、事務職、技能職。不足職種は技術職、現業職、営業職】

調査時点の過剰感の高い職種は、全体で、「現業職」13%(前回調査 9%)、「事務職」9%(同 9%)であった。業種別でみると、製造業は「現業職」19%(同 12%)、非製造業は「事務職」9%(同 13%)が高かった。

一方、不足感の高い職種は、全体で「技術職」15%(同 8%)、「現業職」9%(同 8%)、「営業職」8%(同 7%)となった。業種別でみると、製造業は「技術職」16%(同 12%)、「営業職」11%(同 8%)、非製造業は「技術職」13%(同 4%)、「現業職」9%(同 8%)が高かった。

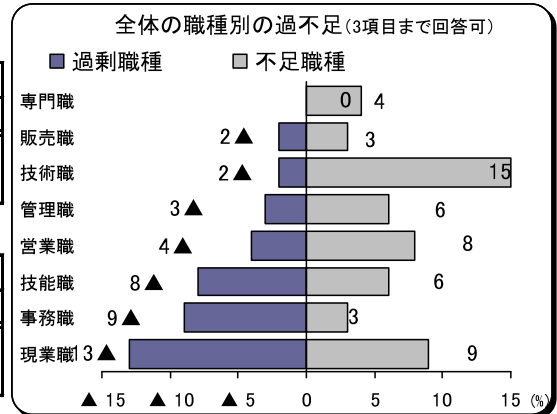
過剰感のある職種(3項目まで回答可) 回答数に対する割合(%)

	専門職	管理職	技能職	販売職	技術職	営業職	事務職	現業職
全体	0 (1)	3 (2)	8 (2)	2 (3)	2 (3)	4 (4)	9 (9)	13 (9)
製造業	0 (2)	4 (0)	11 (2)	0 (2)	2 (2)	2 (2)	9 (6)	19 (12)
非製造業	0 (0)	2 (4)	4 (2)	4 (4)	2 (4)	7 (6)	9 (13)	4 (6)

不足感のある職種(3項目まで回答可) 回答数に対する割合(%)

	専門職	管理職	技能職	販売職	技術職	営業職	事務職	現業職
全体	4 (3)	6 (2)	6 (7)	3 (7)	15 (8)	8 (7)	3 (1)	9 (8)
製造業	2 (4)	7 (2)	7 (12)	2 (4)	16 (12)	11 (8)	5 (2)	9 (8)
非製造業	7 (2)	4 (2)	4 (1)	4 (10)	13 (4)	4 (6)	0 (0)	9 (8)

()内は前回調査値



3. 新規学卒者の採用状況 【「断続的に採用」が増加し、「近年採用実績なし」が減少】

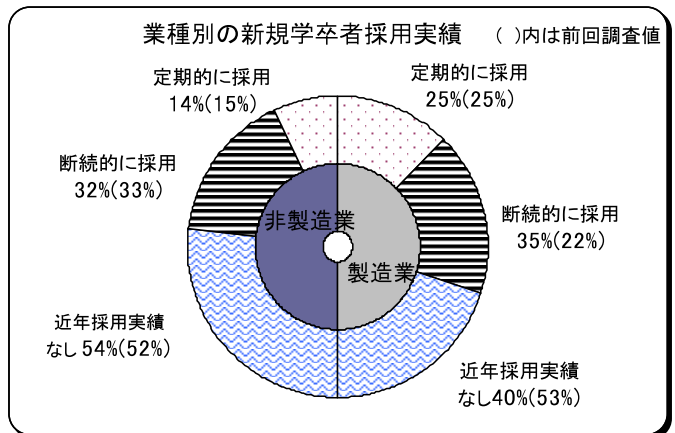
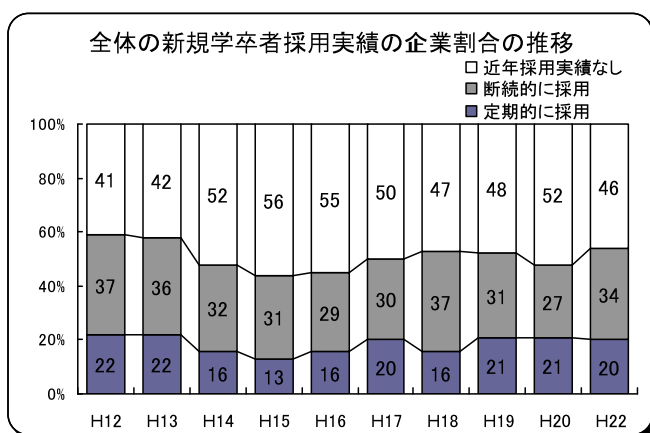
ここ数年の新規学卒者採用実績の企業割合は全体で、「定期的採用」20%(前回調査 21%)、「断続的に採用」34%(同 27%)、「近年採用実績なし」46%(同 52%)となった。

前年と比較して、「定期的採用」がほぼ同水準、「断続的に採用」が7ポイント増加し、「近年採用実績なし」が6ポイント減少した。平成12年からの推移をみても、「定期的採用」の企業割合は依然として低く、様子をみながら採用する企業や、採用を見合わせる企業の割合が高くなっていることが窺える。

業種別でみると、製造業では「定期的採用」(今年 25%、前回 25%)が同水準、「断続的に採用」(同 35%、同 22%)が13ポイント増加し、「近年採用実績なし」(同 40%、同 53%)が13ポイント減少した。

非製造業では、「定期的採用」(同 14%、同 15%)、「断続的に採用」(同 32%、同 33%)、「近年採用実績なし」(同 54%、同 52%)と、ともに前年とほぼ同水準であった。

新規学卒者採用実績を前回と比較すると、特に製造業で、断続的なながらも採用状況が回復していることが窺える。



4. 平成23年度の新規学卒者の採用方針 【「良い人材があれば採用する」が若干減少】

来春の新規学卒者の採用方針(複数回答)をみると、全体では「不足はないがよい人材があれば採用する」が28%(前回調査 32%)で前回に引き続いて最も多い回答で、次いで「充足しているので採用しない」が16%(同 18%)、「採用できる見込みがないので募集しない」が12%(同 10%)の順となった。

業種別でみると、製造業では、「不足はないがよい人材があれば採用する」が30%(前回調査 39%)と最も多くなっ

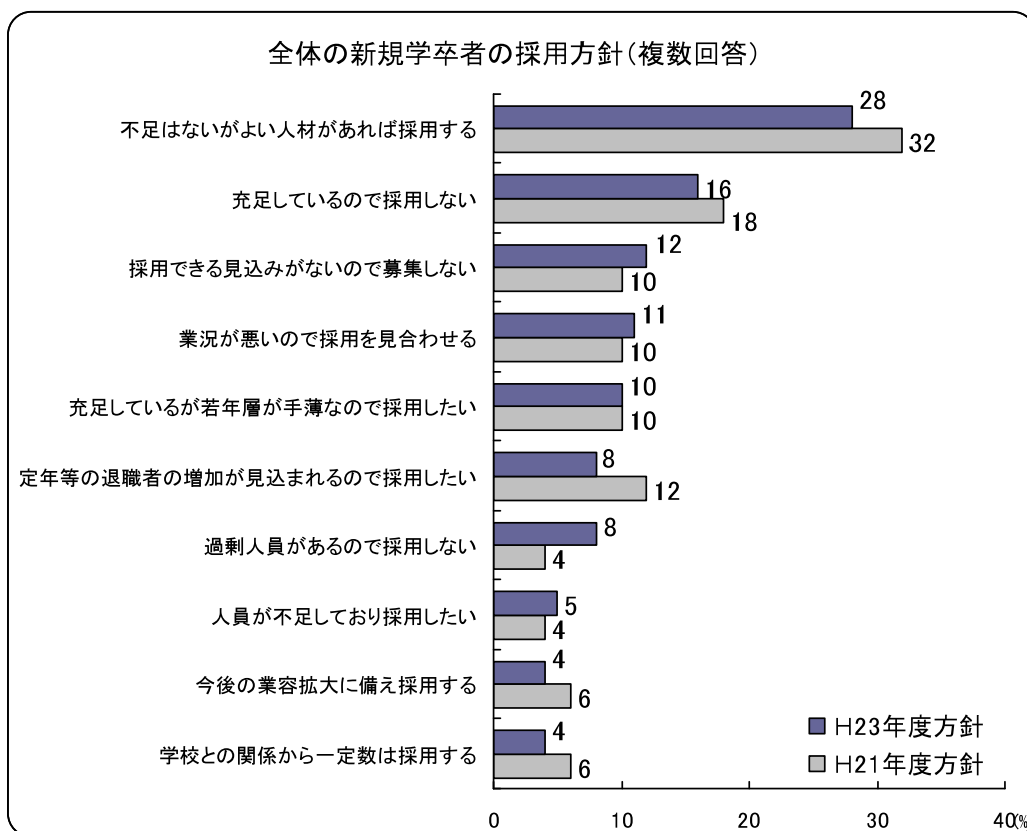
ており、次いで「充足しているので採用しない」が 14%(同 16%)、「業況が悪いので募集を見合わせる」が 12%(同 4%)、「採用できる見込みがないので募集しない」が 11%(同 12%)、「定年等の退職者の増加が見込まれるので採用したい」が 11%(同 12%)となった。非製造業では、製造業と同様に「不足はないがよい人材があれば採用する」が 24%(同 24%)と回答する企業が最も多くなっており、次いで「充足しているので採用しない」が 18%(同 20%)、「採用できる見込みがないので募集しない」が 13%(同 9%)、「充足しているが若年層が手薄なので採用したい」が 11%(同 9%)となった。

前回と比べると、製造業では「不足はないがよい人材があれば採用する」が 9 ポイント減少し、「業況が悪いので募集を見合わせる」が 8 ポイント増加した。非製造業では「業況が悪いので採用を見合わせる」が 8 ポイント減少したが、「定年等の退職者の増加が見込まれるので採用したい」も 9 ポイント減少した。

＜平成23年度の新規学卒者の採用方針(複数回答)＞ (％)

項目	全体	製造業	非製造業
人員が不足しており採用したい	5 (4)	7 (4)	2 (4)
今後の業容拡大に備え採用する	4 (6)	4 (8)	4 (4)
定年等の退職者の増加が見込まれるので採用したい	8 (12)	11 (12)	4 (13)
不足はないがよい人材があれば採用する	28 (32)	30 (39)	24 (24)
充足しているが若年層が手薄なので採用したい	10 (10)	9 (12)	11 (9)
学校との関係から一定数は採用する	4 (6)	2 (6)	7 (7)
充足しているので採用しない	16 (18)	14 (16)	18 (20)
過剰人員があるので採用しない	8 (4)	7 (4)	9 (4)
業況が悪いので採用を見合わせる	11 (10)	12 (4)	9 (17)
採用できる見込みがないので募集しない	12 (10)	11 (12)	13 (9)
その他	7 (10)	4 (9)	11 (13)

()内は前回調査の値



5. 新規学卒者の採用実績(平成 22 年度)と採用計画(平成 23 年度) 【人数、企業数とも若干増加】

平成 22 年度の採用実績は、回答企業 102 社中 43 社で、採用人数は 123 人であった。平成 23 年度に採用計画のある企業は、回答企業 102 社中 53 社で、採用予定人数は 132 人と、平成 22 年度の採用実績と比較すると、採用予定人数は 9 人増加し、企業数は 10 社増加した。

業種別で見ると、製造業では平成 23 年度に採用計画のある企業は、回答企業 57 社中 33 社で、採用計画人数は 69 人であった。平成 22 年度の採用実績と比較すると、企業数 6 社、人数 11 人の増加となった。一方、非製造業では、回答企業 45 社中 20 社で、採用計画人数は 63 人と、企業数 4 社増加、人数 2 人の減少となった。

学歴別採用実績人数を前回と比較すると、「高校卒」(平成 22 年度 73 人、平成 20 年度 119 人)は減少し、「短大卒・専門卒」(同 22 人、同 17 人)は増加した。「大学卒・大学院卒」(同 27 人、同 26 人)とほぼ同水準となった。

学歴別採用計画人数を前年と比較すると、「高校卒」(平成 23 年度計画 64 人、平成 22 年度実績 73 人)は減少し、「短大卒・専門卒」(同 20 人、同 22 人)はほぼ同水準で、「高専卒」(同 6 人、同 1 人)、「大学卒・大学院卒」(同 42 人、同 27 人)は増加する計画となった。

来年度の県内就職を希望する高校の卒業生にとっては、引き続き厳しい状況になることが予想される。

新規学卒者の学歴別の採用実績(H22年度)と採用計画(H23年度) ()内は技術者採用

学歴別	全体		製造業		非製造業							
	H22年度実績 企業数	H22年度実績 人数	H23年度計画 企業数	H23年度計画 人数	H22年度実績 企業数	H22年度実績 人数	H23年度計画 企業数	H23年度計画 人数				
高校卒	22	73 (18)	23	64 (24)	14	30 (11)	15	31 (15)	8	43 (7)	8	33 (9)
短大卒 専門卒	8	22 (5)	6	20 (7)	4	6 (0)	2	5 (0)	4	16 (5)	4	15 (7)
高専卒	1	1 (1)	6	6 (6)	1	1 (1)	5	5 (5)	0	(0)	1	1 (1)
大学卒 大学院卒	12	27 (14)	18	42 (22)	8	21 (11)	11	28 (17)	4	6 (3)	7	14 (5)
合計	43	123 (38)	53	132 (59)	27	58 (23)	33	69 (37)	16	65 (15)	20	63 (22)

企業数の合計は、複数の採用を行う場合でも1社としており、各学歴別の合計とは一致しない

以上